

視神経脊髄炎に対するアザチオプリン使用時における NUDT15 遺伝子多型検査について

9月27日付けで日本神経学会より会員の皆様へ下記の注意喚起の一斉配信メールが送られております。本学会としても改めて周知いただきたくお知らせ申し上げます。

(日本神経学会からの配信メールより抜粋)

本年2月より視神経脊髄炎へのアザチオプリンの使用¹⁾が診療報酬上可能となり、これに合わせて視神経脊髄炎の患者に対するチオプリン製剤投与の可否、投与量等を判断することを目的とした Nudix hydrolase 15 (NUDT15) 遺伝子多型 (区分番号: D006-17) の算定も可能となっております。

本件につきましては本年3月に学会ホームページにてもお伝えしておりましたが²⁾、NUDT15 遺伝子多型の確認はアザチオプリン投与により生ずる重篤な副作用の回避に有用となりますので、改めてご連絡申し上げます。特に初めてアザチオプリンの開始を考慮する症例では、同遺伝子多型検査の施行を考慮いただきますようお願いいたします。

先生方におかれましては、使用にあたっては十分ご留意くださいますよう、何卒よろしくお願いいたします。

2021年9月28日
日本神経免疫学会
理事長 藤原 一男